

『 僕の過去 』

亀山市立亀山中学校 1年 片岡康貴

僕は生まれてすぐに先天性の二分背髄と心臓の心室中核欠損症という病気のために7時間の長い手術をしました。命は助かりましたが大きな傷跡と障害が残りました。

お医者さんはお母さんに「この子は歩けないかもしれないよ。」と言いました。それを聞いてお母さんは言葉では言えないくらい悲しかったそうです。でも、「私が生んだこどもだから、私がなんとかしてあげなければ」という気持ちでいっぱいになり、毎日、毎日、僕の足をマッサージしてくれたそうです。そして、1歳半のときに歩けるようになりました。お医者さんは奇跡だと言って喜んでくれたそうです。そのおかげで僕は今では歩けるし、走れるし、見た目では他の中学生と少しも変わりません。でも僕は、自分の体内で完全に排尿を処理することはできないので4時間に一度は導尿しなければならぬし、ずっとオムツをしていなければなりません。導尿とは、自分で尿を抜くことです。小さい頃お母さんに手伝ってもらいましたが、今では自分でできます。それはとても苦しいのでお母さんに言われながらも導尿をしています。

そんな生活は僕にとっては普通で、みんなと同じように学校で勉強したり、遊んだりできてうれしいです。でも、中には、ぼくのことを普通でないと思う人もいて、意地悪な言葉を言う人がいました。みんなと遊んだりすることが楽しくて、みんなと仲良くなりたいのに、「足が遅い」とか、ぼくの少し曲がっている足が「おかしい」とか言います。みんなの中には体の太った人や細い人や背の高い人や低い人など沢山いて、なぜ、僕の違いだけをいうのかわかりません。

一番悲しかったのは、僕のオムツを見て「赤ちゃんやあ」と言われたときです。僕は学校に行けなくなりました。それは、小学2年生の時でした。僕が休み始めて1週間くらいすると、小学校の校長先生が家に来てくださいました。「もう君のことをいじめる人はおらんよ。もし、いじめる人がいたら、先生たちが康貴君を守ってあげるから学校に行こう。」と言われました。僕はその言葉を全部は信じていなかったのであまり学校に行きたくありませんでしたが、お母さんも「行け。」と言うし、校長先生まで来てくれたので、「行ってみようかな」と思い、行きました。僕はすごく心配しましたが、それからはだれも僕をいじめませんでした。ぼくは先生たちがどんな魔法を使ったのかと驚きました。でも、後で分かったことですが、お母さんが学校や教育委員会や市の保健所に相談に行き、クラスの前で、僕の病気のことや、障害のことを話してくれたそうです。そしてそれから少しして、お母さんは、学校の前でも話してくれました。僕はそのお母さんの話を学校の前で聞いてどう思ったか分かりませんが、僕へのいじめが無くなったことは、とても嬉しかったです。こうやって障害のある人に対してのいじめが無くなるのならこれからはお母さんに代わって僕が話をしていきたいと思うようになりました。

僕が今、一番悲しいと思うことは、自分で命を絶つ人のニュースを聞くことです。僕は健康な赤ちゃんで生まれて来なくて、病院の先生やお母さんのおかげで、今は元気に暮らしています。でも、定期的に病院に通っているし、もう何年もすれば、車椅子の生活になるかもしれません。だから、今の僕は生きているのが嬉しくて、せっかく与えられた命を亡くしてしまうなんて、もったいなくてしかたがありません。僕は今日生きていられることをお医者さんや学校の先生や、そしてお母さんに感謝しています。

お母さんは、今まで僕のために、たくさん苦勞をしてきたと思います。けれどもお母さんは「あんたが私を選んで生まれて来てくれたんやに。あんたがおらんだら、今のこんなに強い私は無いんやで感謝しとるよ。こんなに一生懸命に考えて行動して泣いて喜んだ人生ってなかなか経験できやんものな。康貴のおかげやわ。」と言ってくれました。僕は沢山お母さんに迷惑と苦勞をかけてきたのに、その言葉を聞いて、とても嬉しかったです。そして僕もいつか「一所懸命に考えて行動して泣いて喜んだ人生」と言えるようになりたいです。

人の人生は一度しかありません。それをどう生まれて、どう生きるかそれはその人の気持ちで変わると思います。そして、その気持ちをだれも邪魔をしてはいけないと思います。

僕は今、パソコンを習っていて、将来はパソコン関係の仕事をしたと思います。そうやって将来のことを考えるとわくわくします。僕は僕で生まれたことに誇りをもって、いろんな人に感謝しながら、ずっと楽しい人生を送っていきたくと思います。